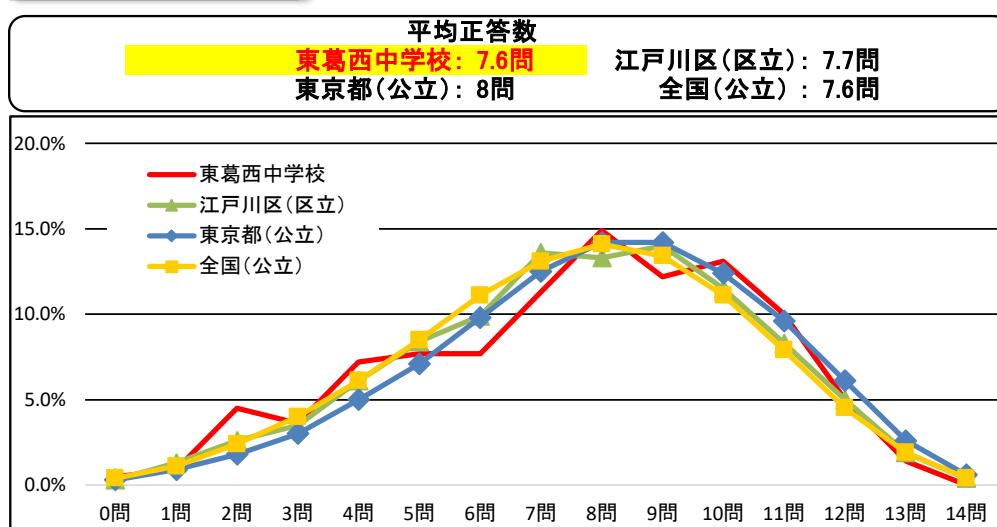
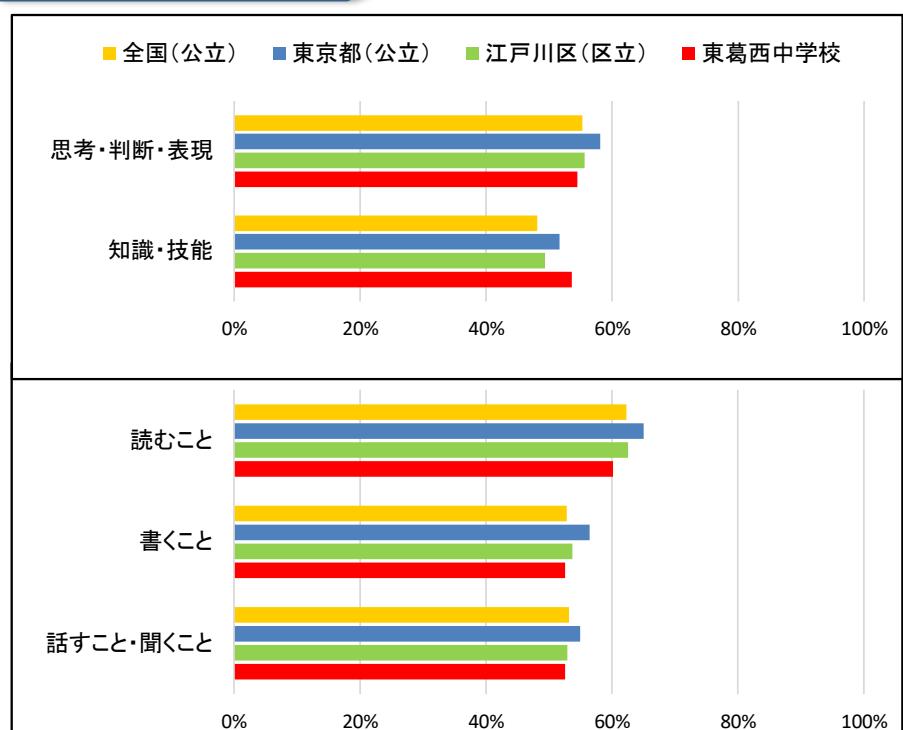


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】東葛西中学校

## 正答数分布



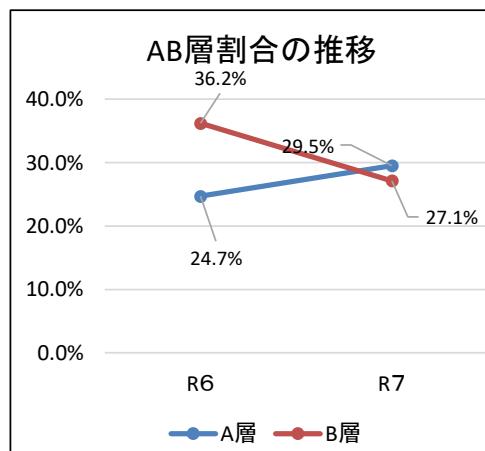
## 「領域別」の結果



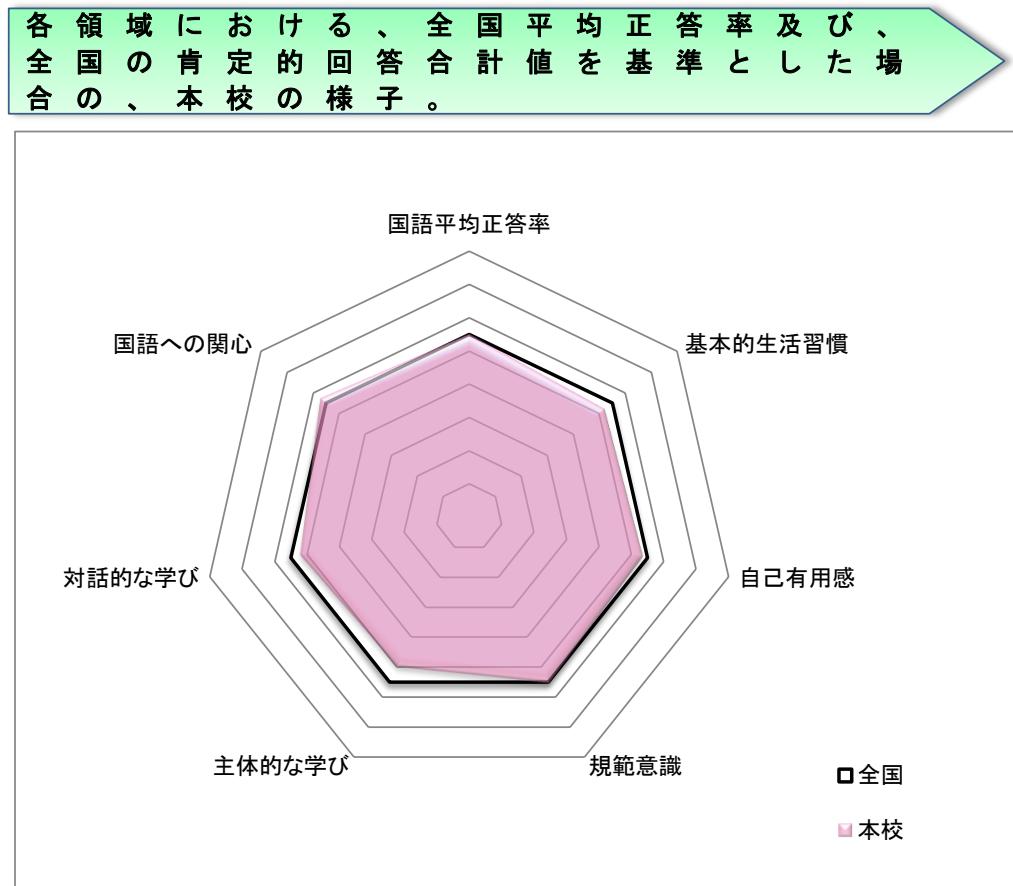
## 四分位における割合(都全体の四分位による)

国語	A層	B層	C層	D層
	10~14問	8~9問	6~7問	0~5問
東葛西中学校	29.5%	27.1%	19.0%	24.4%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



## 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
本校のAB層の合計は56.6%と6割弱である。全国53.3%より高く、東京都の59.6%よりやや低い結果であった。  
上位層の安定した学力定着が見られる一方、中位層では、思考力・表現力を要する問題での課題がうがえるため、CD層の育成とAB層のさらなる学力の定着を図る。毎時間の授業では、前時までの振り返りの時間を確保し、具体的な目標を明示して見通しをもたせる。また、ワークシートなどに取り組む際は、書く前に構成を整理せらるなど、型を分かりやすく提示して取り組みやすくする。正答にたどり着けなくても、「近づけた」ことを評価し、意欲的に取り組めるようにする。

## 《学校の取組》

・教員の指導力向上  
教員間で誤答傾向や指導ポイントを共有し、単元ごとのつまずきを可視化する取り組みを進め、授業を通して、思考過程を重視した授業づくりを推進し、指導力の向上を図る。  
また、校内研修等での授業参観の機会を最大限に活用し、考えさせる授業実践を他の教科からも学び、教科部会で話し合い、さらなる授業改善を目指す。

## ・基礎学力の保障

朝読書や短文要約、漢字小テストなどの活動を授業内で固定して取り入れる。また、よむYOMIワーク等のさらなる活用や、教科を越えて「読む・書く・話す・聞く」活動を計画的に取り入れ、表現力を育む。  
説明的文章では、段落の役割や接続語の働きに注目させ、論理のつながりを可視化する。作文や記述問題においては、根拠をもって意見を述べる指導を徹底する。

## ・学習習慣の確立

フォーサイト手帳の活用、提出物点検を通して学習習慣の確立を促す。小さな成功体験を積み重ね、自己効力感を高める支援を継続する。家庭での実践が難しい生徒には、補習教室や自習教室に参加させ、学校で学習の時間を確保する。

## ・AB層の育成

知識や語彙にとどまらず、文章構成・論理的表現・読解の深まりを育成する。  
筆者の主張に加え、反対意見や自分の立場を考える活動を取り入れ、対話的読解(グループディスカッションや立場別意見交流)を行う。  
根拠を明確にして意見を書く練習を積み重ね、文章構成(序論・本論・結論)を意識させ、論理的思考力を育てる。